

Language and Culture Research Series

言語文化研究叢書

1

イメージと文化

Image and Culture

目 次

叢書の刊行にあたって

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・小栗 友一 / 平井 勝利

論文

女性というイメージの誕生

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・越智 和弘 1

開発のアイコン — イメージからイデオロギーへ

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・櫻井 龍彦 17

イメージで教える日本語の格助詞

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・杉村 泰 39

音楽とイメージ

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・藤井たぎる 57

《春小街》の情景 — 広告・イメージ・コノテーション

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・古田 香織 73

草木は語る都市の記憶 — 朱天心「古都」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・星野 幸代 89

ディケンズと芸術 — 社会の抑圧とそのイメージ —

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・松岡 光治 103

アウラなき「人間」: ジェンダー・イメージと「文学」の変容

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・三浦 玲一 123

執筆者一覧

編集後記

編集後記

昨年 6 月、名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科共催による公開講座が、「イメージと文化」の総合テーマのもと、複数の講師による毎回完結の講演形式で行われました。そこでは、多種多様な視点から「イメージ」を取り巻くいろいろな問題について、毎回興味深い内容の講演が行われ、公開講座終了後この公開講座の成果を形にしてはどうかという話が持ち上がりました。最初は具体的な方法が見つからず、なかなか話が進まなかったのですが、他の大学で同じようなケースを活字にしている例があり、早速言語文化部長と研究科長に相談したところ、すぐにご賛同いただき、両部局長のゴーサインおよび教授会での承認を経て今回の刊行が実現する運びとなったわけです。その際、公開講座には参加しなかったが、「イメージと文化」というテーマについては関心を抱いているという声が聞かれたので、あらたに執筆者を募って、最終的に上記の 8 名の論文を掲載するに至りました。したがって、この「言語文化研究叢書 1」は、最初の意図とは異なり、昨年公開講座の講演を編集したのではなく、公開講座の枠組みを取り払った、全く別の論文集という性格を持っています。また、今回のケースを最初として、これから本部局において行われる公開講座やシンポジウム等、日頃の研究成果の発表の場として、シリーズ化していくことになり、今回の刊行は、「言語文化研究叢書」の創刊号という性格も兼ね備えております。この「言語文化研究叢書」が、今後どのような位置を獲得していくのかまだまだ未知数ではありますが、さらに充実した内容の論文集として、広く大学内外において貢献する研究書へと発展していくことを強く願っております。

最後になりましたが、急な申し出にもかかわらず、御理解を示していただき快く刊行を御承知くださった、小栗言語文化部長、平井研究科長にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、刊行にあたりましていろいろとアドバイスをいただきました北海道大学の高橋吉文先生、そして力量不足の編者を最後まで見捨てることなく、いろいろとお手伝いいただいた藤井先生、松岡先生、黄先生をはじめとする諸先生方にも、改めて心より御礼申し上げます。

執筆者一覧（掲載順）

越智 和弘	名古屋大学	国際言語文化研究科	教授
櫻井 龍彦	名古屋大学	国際開発研究科	教授
杉村 泰	名古屋大学	言語文化部	講師
藤井 たぎる	名古屋大学	国際言語文化研究科	助教授
古田 香織	名古屋大学	言語文化部	助教授
星野 幸代	名古屋大学	言語文化部	助教授
松岡 光治	名古屋大学	言語文化部	助教授
三浦 玲一	一橋大学	言語社会学研究科	助教授

言語文化研究叢書
Language and Culture Research Series

1

イメージと文化

2002年3月31日 発行

編集 古田 香織

発行 名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
TEL: (052)789-4881 / 4882 FAX: (052)789-4873

代表者 小栗友一 / 平井勝利

印刷所 中部日本教育文化会
〒465-0088 名古屋市名東区名東本町 177 番
TEL: (052)782-2323 (代表) FAX: (052)782-8172

表紙デザイン K.F.

叢書の創刊にあたって

私たち、言語文化部・国際言語文化研究科において教育研究に従事する者たちは、研究成果を発表する自前の媒体として紀要『言語文化論集』を持っている。これは、教養部・語学センター「紀要」をひきついで1980年に創刊され、本年3月には第XXIII巻第2号の刊行に至るものであり、もっぱら研究者を対象とする、学術的な論文を掲載する機関誌である。

このたび、紀要に加えて、研究叢書『言語文化研究叢書』を創刊する運びになったが、その趣旨は、大学や研究所等の言語文化の専門家だけでなく、広く、言語文化のさまざまな面に関心をもつ学内と学外の人々に向けて、私たちの研究成果を届けることである。

この創刊号の総合テーマ「イメージと文化」は、昨年夏に開講された私たちの公開講座のそれをひきついだものである。ここにはしかし、そのときの講義を発展させたものとならんで、同じ総合テーマのもとに公開講座とは別に執筆されたものもまた集められている。この『言語文化研究叢書』には、今後も、公開講座を機に生まれた論考を含む、紀要よりは広い読者層を想定した論文等を数多く載せ、多くの市民へ向けて私たちの研究成果を発信したいと思っている。

読者の皆様の忌憚のないご意見ご感想を賜り、また支えていただき、これが、文字どおり大学と社会を結ぶ研究叢書として成長することを願ってやまない。

2002年3月

言語文化部長 小栗友一 国際言語文化研究科長 平井勝利

